



### 佐藤淳一（サクソフォン）

ルチアーノ・ベリオは 20 世紀を代表するイタリアの作曲家です。彼は「注釈技法」という作曲法を提唱し、作品に対して「前に現れたもの、そしてこれから現れるものの注釈である」と定義付けしています。いわゆる現代音楽に分類され一聴すると難解と思われがちなの彼の作品群ですが、それらに詳細な注釈を与えることによりベリオの意図したことがより鮮明になり、それは聴衆の聴き方の変化に繋がります。今回は皆様にそんな経験をして頂きたいと思っています。

平成 23 年度 博士号取得  
「ルチアーノ・ベリオ論：注釈技法の研究とその起源を巡って」



### 澤江衣里（声楽）

私は博士論文で、イギリス人作曲家 R. クイルター（1877-1953）の歌曲を取り上げました。クイルターの歌曲は、イギリスの田園風景を思わせる懐かしさや温かさに溢れています。構造的には一見単調なリズムが反復されますが、この柔和で豊かな音楽世界を表現することは難しく、実は歌唱の際に発語する子音の扱いがとても重要になってきます。また詩の持つ言葉の流れやリズムを活かしながら歌唱として表現していくとはどのようなことなのか、そのプロセスをお話しながら実演してみたいと思います。

平成 23 年度 博士号取得  
「詩と音楽から捉える発展的な歌唱旋律の探求：  
R. クイルターの歌曲集《7つのエリザベス朝の歌》Op.12 を通して」

## D-CONCERT 2 | 演奏家と共に探る音楽の新しい聴き方



### 東音 河合佐季子〔河合佐季子〕（長唄三味線）

明治時代、能楽と三味線音楽が融合した「吾妻能狂言」という芸能が起りました。私は博士研究で、現在ではすでに消失してしまったこの芸能の実態を解明しました。D コンサートでは、この芸能のために作曲された長唄の一部分を、もともとなった能の謡を交えながら実演します。同じ詞章でありながら三味線が加わることで全く異なる印象の音楽になります。中世と近世の日本音楽の相違と共に、多様化された音楽を体感していただければ幸いです。

平成 23 年度 博士号取得  
「吾妻能狂言の研究：その芸能と後世への影響」



### 山本美樹子（ヴァイオリン）

R. シューマンの後期音楽の本質とは？ 思想家ロラン・バルトの洞察した「リズムを打つことで身体の奥に達する」音楽とは？ 理解困難という評価を受けてきたシューマン最晩年の作品、《ヴァイオリンソナタ第3番》WoO2 は、それらを解き明かす糸口になると確信しています。構造原理の革新性とそこから立ち上がる音楽的充実度に、演奏者は何を感じ、人はどのようにそれを聴くのか。演奏実践を通して作品を開いていく試みの一端をお聴き頂けましたら幸いです。

平成 23 年度 博士号取得  
「R. シューマン《ヴァイオリンソナタ第3番 イ短調》WoO2 作品論」



村田千佳（ピアノ）

### 東京藝術大学音楽学部

#### | 交通案内 |

JR 上野駅（公園口）・JR 鶯谷駅・東京メトロ千代田線根津駅より徒歩 10 分  
京成線上野駅、東京メトロ日比谷線上野駅・銀座線上野駅より徒歩 15 分  
駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください。  
所在地／東京都台東区上野公園 12-8 110-8714

